心もれ美

美馬中学校
道徳通信　第２号

令和８年１１月４日

１０月２７日（火）　「青春に悔いなし ―賀川豊彦―」

賀川豊彦は、恩師との出会いを通してキリスト教に導かれ、結核で余命を覚悟する中で、残りの生涯を貧しい人々のために捧げようと決意します。神戸のスラム街に身を置いて救済活動を続け、のちに労働運動や教育活動など幅広い活動へと歩みを広げていきました。そんな姿から、悔いのない生き方とはどんな生き方か、自分の力をだれのために使いたいかを考えました。

みんなの感想

１年生

○賀川さんは自分がつらい時でも、他の人の事を考えて、ちょっとでも役に立とうとしていて、自分も賀川さんみたいに、ちょっとでも役に立とうとしていきたいと思いました。
○この学習を通して、私はこれからどんなに悲しいことや、きついことがあっても、賀川さんみたいに最後まで強く生きる人になりたいです。
○人生を通してこんなに人のために行動ができる人は本当にすごいと思いました。できる限り自分もこの人みたいな生き方をしていきたいです。
○僕はこのお話を聞いて、賀川さんみたいに、大変なことがいっぱいあるかもしれないから、賀川さんみたいにいつでも前をむいて進める人になりたいです。
○今の自分は、自分のためにしか動けていないかもしれないけど、賀川さんのように周りの人を助けられるようになりたいと思う。
○こんなに悲しいことがたくさんおこって、それでも人の役に立ちたいと思える豊彦さんはとてもすごいと思う。
○賀川さんみたいに困っている人を、どんな小さいことでもいいから救っていこうと思いました。

【保護者の方々より前回の心もれ美通信の感想をいただきました。】
○当たり前だと思っている普段の生活、家族や友達、生活での事、学校での事、めんどくさいと思う事。本当に一つ一つがありがたく幸せだと気づけたのがラッキーです。今からの生活を大切に。一瞬を大切に。毎日を元気で楽しく過ごせますように。
○1 年生から 3 年生まで、それぞれの視点で、しっかりと、自分の思いを綴っていることに、成長を頼もしく感じました。命の尊さ、当たり前の日常の大切さ、深く学び取っていることが伝わってきます。このような学びを与えてくださった先生方に感謝します。家庭でも、子供としっかりと話をすることができました。
○日々過ごしている当たり前の日常がかけがえのないものだと、多くの生徒の方々が再認識できたと思います。

２年生

○自分は、これから先、自分が進んでいく「道」がどんなものかは分からないけれど、たとえば苦しい日々が続いたり、「死にたい」と思うようなことがあったとしても、マヤス博士の言葉である「ほほえむ目には、太陽も笑って見えるのだから」という言葉を思い出して、笑顔でいようと思いました。マヤス博士の言葉がすごく印象に残りました。
○自分が感じた苦しみを他人に受けさせたくはない、そういう考えからでも救える命はあるんだと思いました。
○賀川豊彦さんのように「自分と同じ目にあっている人を助けたい」という考え方ができる人間に自分もなりたいと思いました。
○私ははじめ、なぜ自分を犠牲にしてまで他の人たちの幸せを願って行動することができるのか、不思議に思った。でも、賀川さんはそもそも人のために行動することは、自分を犠牲にしているわけでもなんでもないと考えていたのではないかということに気付き、自分の考え方が少し変わった。
○豊彦さんのように人のために生きたことは自分にないし、前向きにずっと生活したことはないのでとてもすごいなと思いました。悲しいこともたくさんあったけど、心に残った言葉を忘れずに生きていたのを知って、すごく尊敬するところがいっぱいだし、自分もそうなりたいと思いました。
○他の人からしたら何とも思わない言葉が、誰かにとっては救われた言葉になることが分かりました。人のために生きようと思えることは、すごくかっこいいと思いました。





3 年生

○私は豊彦さんみたいに、困難があっても希望をもって動ける人になりたいです。人のために動ける人になりたい。
○賀川さんは、自分の悲劇があってから目の前の子どもたちを救おうとしていて、使命感が強い人だと感じました。私も、人の役に立てるような人になりたいです。
○心が広くて、人のために動くってなかなかできないと思うけど、人の幸せのために動くってとてもすごいことだと思いました。人の幸せが自分の幸せを形で表したのが、この人だなと思いました。自分は、人のことのために動くのはあんまりできないけど、少しずつでも、人のことを考えれる人になりたいです。
○悲嘆と絶望に陥ったり、死を決意したりする壮絶な経験をしたのに、その後の人生を「神と人に捧げよう」と心に決め、実際にたくさんのことを成し遂げて本当にすごい人だと思いました。私は賀川さんのように何かを１からつくることはできないかもしれないけど、周りのたくさんの人がつくられたものを引き継いだり、手伝ったりすることで生まれる大きなパワーの一部になって、誰かの役に立てるようにしたいです。
○「微笑む目には太陽も笑って見える」という言葉を聞いて、ボランティア活動に挑んだ賀川さんのように、自分も人のことを助けられるような人になりたいと思いました。そしていつでもネガティブじゃなくて、前向きな気持ちをもって、いろんなことに挑戦できる生き方をしたいです。
○賀川さん自身貧しい生活や病気をし、すごく苦しい辛い経験をしながら、貧しい人たちと同じ町で暮らし、人々を支え、寄り添い、困っている人々を助け続けたことが心に残り、僕は偉大な方だと思いました。僕も、辛いことがあってもあきらめたくないです。

きりとり

この通信をご覧になっての感想などをお書き下さい。
返信欄は切り取ってお子様を通じて担任まで提出して下さい。ご協力よろしくお願いいたします。